

事業報告及び収支決算報告書

(平成21年10月1日～平成22年9月30日)

I. 事業報告

1 「第20回世界少年野球大会東京大会」の開催

- (1) 大会趣旨 「野球を正しく全世界に普及・発展させると同時に世界の青少年に友情と広げる」という財団設立の趣旨を実現することを目的に開催した。
- (2) 主催 財団法人世界少年野球推進財団
東京都
財団法人日本野球連盟
- (3) 主管 国際野球連盟
- (4) 後援 総務省 外務省 文部科学省 厚生労働省 経済産業省
国土交通省 大田区 世田谷区 渋谷区
財団法人東京都スポーツ文化事業団
社団法人東京都医師会
財団法人全日本軟式野球連盟
財団法人東京都軟式野球連盟
NHK 株式会社NHKグローバルメディアサービス
朝日新聞社 毎日新聞社 読売新聞社
- (5) 協力 財団法人JKA 全日本アマチュア野球連盟
日本プロフェッショナル野球組織
アメリカ・メジャーリーグ・ベースボール
財団法人自治総合センター
日本航空
なお、本大会はオートレースの補助金を受けて実施した。
- (6) 協賛 株式会社エバーライフ アコム株式会社
アサヒ飲料株式会社 カシオ計算機株式会社

ジャパンローヤルゼリー株式会社
 セコム株式会社 ソフトバンクグループ
 大正製薬株式会社 株式会社デサント
 東京電力株式会社 株式会社東京ドーム
 株式会社東芝 TOTO株式会社
 ナガセケンコー株式会社 西川産業株式会社
 ミズノ株式会社

(7) 協力団体・企業

観光庁 医療法人徳州会東京西徳州会病院
 株式会社GABA 神田外語大学
 松竹株式会社 株式会社ジャルセールス
 株式会社千修 株式会社博報堂DYメディアパートナーズ
 大田倶楽部

(8) 大会概要

世界22か国・地域から参加した少年少女190人が8つのグループに分かれて野球教室に参加して野球の基本を学んだ。また、台湾の少年チームとオーストラリアの少女チームを招待して、都内の少年少女チーム11チームと国際交流試合を行った。野球教室と国際交流試合を午前中に行い、午後の交流行事で子どもたちは歌舞伎勉強会やお祭り体験、都庁見学などに参加した。

(9) 期 間

平成22年7月29日（木）から8月6日（金）まで

(10) 会 場

駒沢オリンピック公園軟式野球場、硬式野球場

(11) 宿 舎

国立オリンピック記念青少年総合センター

(12) 参加者

1. 野球教室 190名（国内80名、アメリカ10名。他の参加国・地域は各5名）
2. 国際交流試合

台湾少年チーム	16名
オーストラリア少女チーム	18名
八丈黒潮ジュニア（八丈町）	15名

多摩川フラワーズ（世田谷区）	20名
オール府中女子（府中市）	20名
オール板橋（板橋区）	19名
オール大田（大田区）	16名
オール葛飾（葛飾区）	20名
オール立川（立川市）	15名
ヤングホークス（目黒区）	20名
町田玉川学園少年野球クラブ（町田市）	19名
全大井西（品川区）	13名
足立フレンズ（足立区）	18名
3. IBAFコーチ	12名
4. スポークスパーソン	1名
5. ホストスタッフ	49名
6. シャペロン	25名
7. アシスタントコーチ	18名
8. 国際交流試合担当者	21名
9. 交流行事協力者	150名
10. 大会役員、事務局	50名

（13）参加国・地域

【米 州】アメリカ合衆国 カナダ プエルトリコ

【アジア】中華人民共和国 香港 インドネシア 大韓民国
シンガポール 台湾 タイ パキスタン 日本

【欧 州】オーストリア フランス オランダ スウェーデン
チェコ イタリア マルタ

【大洋州】オーストラリア ミクロネシア ニュージーランド
サイパン

【アフリカ】チュニジア

（14）日 程

7月29日（木） 各国少年少女入国 受付 用具配布
国内参加者結団式
台湾少年チーム、オーストラリア少女チーム入国

- 30日（金） 参加者オリエンテーション 用具配布
 歓迎レセプション（国立オリンピック記念青少年総合センター）
- 31日（土） 記念撮影（駒沢オリンピック公園硬式野球場）
 開会式（同）
 野球教室No.1（駒沢オリンピック公園軟式野球場）
 交流試合No.1（駒沢オリンピック公園硬式野球場）
 世界大学野球選手権観戦（神宮球場）
- 8月1日（日） 野球教室No.2（駒沢オリンピック公園軟式野球場）
 交流試合No.2（駒沢オリンピック公園硬式野球場）
 大田倶楽部による祭り体験（平和島公園野球場など）
- 2日（月） 野球教室No.3（駒沢オリンピック公園軟式野球場）
 交流試合No.3（駒沢オリンピック公園硬式野球場）
 歌舞伎勉強会（東劇）
- 3日（火） 野球教室No.4（駒沢オリンピック公園軟式野球場）
 交流試合No.4（駒沢オリンピック公園硬式野球場）
 プール体験（江戸川プールガーデン）
- 4日（水） 野球教室No.5（駒沢オリンピック公園軟式野球場）
 交流試合No.5（駒沢オリンピック公園硬式野球場）
 都内見学と買い物体験（お台場など）
 参加者交歓会（東京ドームホテル）
 記念レセプション（同）
- 5日（木） 野球教室No.6（駒沢オリンピック公園軟式野球場）
 交流試合No.6（駒沢オリンピック公園硬式野球場）
 記念植樹（駒沢オリンピック公園硬式野球場）
 閉会式（駒沢オリンピック公園硬式野球場）
 都庁訪問
 台湾少年チーム、オーストラリア少女チーム帰国
- 6日（金） 各国少年少女帰国

2. 大正製薬少年野球教室の開催

大正製薬と財団との共催による野球教室。小学生を対象に埼玉県所沢市で開催した。

期 日 平成22年3月27日（土）
会 場 所沢市・中野リトルリーグ専用球場
講 師 市川和正（横浜OB）水上善雄（ロッテOB）
西崎幸広（日ハムOB）
参加者 中野リトルリーグ所属の選手約100名

3. JA全農WCBF少年野球教室の開催

全国農業協同組合連合会（JA全農）の特別協賛事業として、財団が主催して毎年開催している野球教室。日本メグミルクコミュニティ（MEG MILK）とJA全農ミートフーズ株式会社、全農チキンフーズ株式会社、JA全農たまご株式会社の4社が協賛。昭和58年度から毎年開催している。

プロ野球OBの講師が、少年野球の指導者に正しい指導法を教え、子どもたちにはポジション別に投手、捕手、野手に分けて、投げる、捕る、打つ、走る、の基本を指導した。また、NSCA認定トレーナーが、肩やひじの障害を予防するトレーニング方法や成長期にある子どもたちの体づくりの基本を指導した。

平成22年度は次の6か所で開催。うち4か所では管理栄養士、栄養士による栄養講座を開催した。母親を対象にした栄養講座では、「成長期にある野球少年の食事について」をテーマに講義をしてもらった。

1) 花巻教室

期 日 平成21年10月17日（土）
会 場 岩手県花巻市・花巻球場
講 師 村田兆治（ロッテOB、財団専務理事）
市川和正（横浜OB） 屋鋪要（巨人OB）
本西厚博（ロッテOB）
吉田直人（ウィダートレーニングラボ所属トレーナー）
参加者 少年244名 指導者44名

2) 大和郡山教室

期 日 平成21年11月23日(祝)
会 場 奈良県大和郡山市・大和郡山市営球場
講 師 市川和正(横浜OB) 屋鋪要(巨人OB)
本西厚博(ロッテOB)
吉田直人(ウィダートレーニングラボ所属トレーナー)
参加者 少年149名 指導者80名

3) 府中教室

期 日 平成21年11月28日(土)
会 場 東京都府中市・市民球場
講 師 村田兆治(ロッテOB、財団専務理事)
市川和正(横浜OB) 屋鋪要(巨人OB)
本西厚博(ロッテOB) 川口和久(巨人OB)
吉田直人(ウィダートレーニングラボ所属トレーナー)
海老久美子(立命館大学スポーツ健康科学部教授)
参加者 少年178名 指導者65名 母親25名

4) 倉吉教室

期 日 平成22年7月3日(土)
会 場 鳥取県倉吉市・市営野球場
講 師 市川和正(横浜OB) 屋鋪要(巨人OB)
水上善雄(ロッテOB) 川口和久(巨人OB)
吉田直人(ウィダートレーニングラボ)
奥井智美(栄養士)
参加者 少年191名 指導者43名 母親23名

5) 青森教室

期 日 平成22年8月22日(日)
会 場 青森県青森市・サンドーム
講 師 市川和正(横浜OB) 屋鋪要(巨人OB)
水上善雄(ロッテOB) 川口和久(巨人OB)
吉田直人(ウィダートレーニングラボ所属トレーナー)
海老久美子(立命館大学スポーツ健康科学部教授)
参加者 少年169名 指導者13名 母親10名

6) 水戸教室

期 日 平成22年9月20日(祝)
会 場 茨城県水戸市・市民球場
講 師 村田兆治(ロッテOB、財団専務理事)
市川和正(横浜OB) 屋鋪要(巨人OB)
水上善雄(ロッテOB)
吉田直人(ウィダートレーニングラボ所属トレーナー)
海老久美子(立命館大学スポーツ健康科学部教授)
参加者 少年201名 指導者18名 母親22名

4. エバーライフ・皇潤WCBF少年野球教室の開催

株式会社エバーライフの特別協賛を得て、一昨年度から財団が開催している少年野球教室。本年度は静岡市と長崎市の2か所で開催した。静岡会場では静岡新聞社と静岡放送の共催で、静岡県野球連盟の後援。長崎会場では西日本新聞社の共催で、長崎市と長崎市教育委員会の後援。新聞社と放送局は、参加者募集などを告知して野球教室をPRしてくれるとともに参加者募集に協力してくれた。

講師はプロ野球OB。まずキャッチボールを指導した後、ポジションごとに分かれて守備の練習をし、打撃とピッチングを指導した。野球の経験のない参加者には、野球の基本を教えた。

1) 静岡教室

期 日 平成21年10月21日(祝)
会 場 静岡県営草薙球場(静岡市)
講 師 田野倉利男(中日OB)(校長代理)
西本聖(巨人OB) 池谷公二郎(広島OB)
藤波行雄(OB)
参加者 167名

2) 長崎教室

期 日 平成21年11月21日(土)
会 場 長崎県営球場(長崎市)
講 師 若田部健一 加藤伸一 坊西浩嗣 浜名千広
藤原満 出口雄大 田中瑞季 永井智浩
大野隆治 (いずれもソフトバンクOB)
参加者 190名

5. 三井ゴールデン・クラブ野球教室

野球少年が過度の練習などでけがをしない正しい練習方法や指導方法を、実技と講義を通して少年野球チームの指導者に身につけてもらうのを主眼とした野球教室で、本年度から開催された。

年間を通して優れた守備をしたセ・パ両野球連盟の選手たちに毎シーズン後、「三井ゴールデン・クラブ賞」を贈っている三井広報委員会（三井グループ企業24社で構成）が主催し、東京都軟式野球連盟共催、財団法人世界少年野球推進財団が特別協力。講師は全員、三井ゴールデン・クラブ賞の受賞者。

期 日 3月20日（土）
会 場 神宮球場屋内練習場
講 師 大矢明彦（ヤクルトOB） 屋鋪要（巨人OB）
水上善雄（ロッテOB） 阿波野秀幸（近鉄OB）
吉田直人（ウィダートレーニングラボ所属トレーナー）
参加者 指導者96名 少年15名

6. 会報の発行

WCBF会報第34号及び第35号を発行し、財団の事業内容や活動状況を広報し、併せて協賛企業や寄付者（社）、法人会員、個人会員、構成団体会員を募った。

様 式 B5判 カラー印刷
ページ数 34号が24ページ
35号が32ページ（第20回大会特集号として増ページ）
発行部数 各5,000部
発 行 日 34号（平成21年10月1日付）
35号（平成22年4月1日付）
配 布 先 世界少年野球大会参加者
協賛企業 寄付者 WCBF会員（個人、法人、構成団体）
マスコミ 関係官庁 野球団体 その他

5. グッズの収益事業

サンリオのキャラクター、ハローキティを生かしたプロ野球球団のぬいぐるみやキーホルダー、タオルなどのグッズの販売は、当初売り上げ目標

を上回る実績を残すことができた。

これは、今シーズンからオリックス・バファローズが商品化に協力してくれ、12球団すべてのグッズがそろったのと、セ・リーグの読売ジャイアンツと阪神タイガースの関連商品の販売が前年度に引き続いて好調だったためだ。

また、これまで以上に各球団と球場の協力が得られたことも、販売実績の上昇につながった。東京ドーム（読売ジャイアンツ）では、売り場面積を拡張してくれたために売り上げが前年を20%も上回った。神宮球場（ヤクルト）の売り上げも前年度に引き続いて好調で、ヤフードーム（福岡ソフトバンクホークス）と甲子園（阪神タイガース）の売り上げが前年を大きく上回った。

セ・パ両リーグとも、終盤まで優勝争いで盛り上がったことも、売り上げアップにつながった。

以上